

プレースメントテスト

作文

Placement Examination

Composition

プレースメントテスト ID _____

名 前 _____
name

国 籍 _____
nationality

注意

辞書や教科書、インターネットなどは絶対に使わないでください。もし、そのようなものを使うと、あなたの日本語能力を正しく判定できず、あなた自身の不利益につながります。

We ask that you not use dictionaries, textbooks or the internet when writing. If you use such materials, this test(composition) cannot reflect your Japanese level correctly, which will lead to your disadvantage.

日本語日本文化教育センター
Center for Japanese Language and Culture

以下の質問 1～3 すべてについて、指示にしたがって書きなさい。

Follow the directions written in Q1~Q3 as follows. All of them are obligatory.

質問 1 (Q1)

大学でどのようなことを学びたいと思いますか。 100～200 字程度で書きなさい。

質問2 (Q2)

次の文章を 200~400 字程度で要約しなさい。

日本では近年、大学の教育が何の役に立つのかということが盛んに議論されている。

個人の立場から言えば、少なくとも大学に「入ること」が役に立つことははっきりしている。高校を卒業してすぐに会社などで働く人と、大学を卒業して働く人を比較すると、一生のうちに得られる賃金は、大学を卒業した人の方がかなり多くなる。大学に通っている4年間は仕事をしていないのでもちろん賃金はもらえないわけだが、それでも、長い目で見れば、大学に入った方が金銭面で得になることが多いのである。

しかしそこで重要なのはあくまで大学に「入ること」であって、大学で「学ぶこと」が役に立っているかどうかは分からない。大学を卒業した人を雇用する会社は、「この人は大学入試に合格するくらいだから、きっと優秀に違いない」と判断しているだけかもしれない。その人が大学で学んだことがその仕事の役に立つと考えているのではないかもしれない。

また、大学には多くの税金が使われている。税金を使う理由は、大学に入った個人にとって役に立つというだけでは十分ではない。税金を支払っている人たちの社会全体にとって役に立つものである必要がある。

あなたなら、この問題をどう考えるだろうか。日本語や日本文化を学ぶことは、どのように役に立つだろうか。

もちろん、日本語しか話せない人と友人になったり、日本語のコンテンツを楽しんだり、日本企業で働いたり、あるいは日本企業と取引のある仕事をしたり、といった場合には、日本語や日本文化を学ぶことが直接的に役に立つだろう。しかし大学で日本語・日本文化を学ぶ人の全てが、そのような人生を送るとは限らない。大学を卒業した後は日本とほとんど縁のない環境で過ごす人は、決して珍しくないし、仕事で日本に関わる人はもっとまれである。これは他の専門の学生でも、基本的に同じことである。法学部を卒業した学生が法律に関係する仕事をすると限らないし、工学部を卒業した学生が小説家になることだって十分にありうることなのである。

私は、日本語や日本文化を学ぶことの意義は、外国の文化を知ることによって、自分の持つ文化を考え直すことができるということ、そして異なる文化を生きる人々も、結局は同じ人間であることを実感できることにあると思う。

たとえば日本では、多くの家庭で、子どもは親と同じ部屋で一緒に寝ることが多い。もちろんそうでない家庭もたくさんあるだろうが、少なくともそれは決して珍しい習慣ではない。いっぽう特に西洋では、子どもが1歳になる前にひとりで寝るようにしつける文化があるという。そういう文化の人から見れば、日本の文化は奇異に見え、時には嫌悪を感じるかもしれない。しかし一度その驚きからさめて冷静に考えることができれば、自分たちの文化が決して普遍的でも絶対的なものでもないことに気づくだろう。それから、子どもを一人で寝かせることによって得られるものや、それによって失うもの、逆に一緒に寝ることによって得られるものと失うものについて、多少とも考えることだろう。さらに、

子どもを一人で寝かせる文化では、子どもと一緒に寝る文化に比べて、一般的に、一緒に寝る以外のふれあいの機会が多いという。それがどの程度正しいかは詳しく研究しなくては分からないが、もしもその通りだとすれば、子どもと親とのふれあいの程度は、全体としては文化間での差は大きくないと言えるかもしれない。個別の行動の仕方に違いはあっても、結局は親子のふれあいは同じ程度に大切にされている、とも考えられるのである。

このようなことを学び、考えることで、将来その学生の収入が増える…ということは期待できない。しかしこのような観点を持つことは、それだけ違った物事の見方を可能にする。それは、単純な金銭以上に人生を豊かにするのではないだろうか。

以上述べたことは、個人にとって役に立つことである。では、日本語・日本文化を学ぶことは、社会にとってどのように役に立つのだろうか。

大学教育の一つの役割は、「良き市民」を作ることにある。社会を構成する一員として、さまざまな場面で「正しい」判断と行動ができるようになることが、大学での学びの目標の一つである。

たとえば現代のグローバル社会は、歴史上最も、異文化の交流が盛んなものになっている。あなたの町にも外国の文化にルーツを持つ人々が住んでいるかもしれない。あなたと同じ教室に、母語も肌の色も違う人が座っているかもしれない。あなたは将来、国際結婚をする可能性だってあるのである。

しかし異文化の交流は、決して快いことばかりでなく、常に衝突の危険をも秘めている。家庭で、教室で、町で、時には国全体で、文化の異なる人と生きるのもういやだ、もう一緒には暮らしていけない、という声上がることは、今後ますます増えていくと危惧される。そんなときに、日本語・日本文化を学んだ人たちは、そうでない人たちよりも少し冷静に考えることが期待される。それは、衝突する異文化が日本文化であってもなくても、同じことである。

一見奇異で嫌悪されるような習慣であっても、尊重されるべきその人々の文化と理解すること。そして根底には同じ人間としての普遍的な価値があるのではないかと考えること。必要に応じてそれを調査・研究する方法と意思を持つこと。それを踏まえて、社会の古くからのメンバーと新しいメンバーとの間の適切な妥協点を、丁寧な対話を通じて見つけること。身の回りの人に、そのことを説明して理解を広げること。そんな判断と行動ができる市民になることができれば、日本語・日本文化を学ぶことは社会にとって間違いなく「役に立つ」ものだと誇れるのではないだろうか。

質問3 (Q3)

学生（あなた）が日本語・日本文化を学ぶとき、どのようなことに注意すればよいと考えますか。課題文をふまえて、あなたの意見を 400 字～600 字程度で書きなさい。なるべく個人と社会の両方に言及し、必要に応じて具体的な例を挙げて記述すること。